

平成23年度～平成30年度

富山高等専門学校 運営諮問会議

議事概要まとめ

平成31年1月

【委員】

[敬称略，順序不同]

- (議長) 遠藤俊郎 (富山大学長) 平成23～30年度
- 石塚勝 (富山県立大学工学部長) 平成23～24年度
- 松本三千人 (") 平成25～28年度
- 森孝男 (" 副学長・工学部長) 平成29～30年度
- 高田勇 (富山県中学校長会会長) 平成23～24年度
- 星野正義 (") 平成25年度
- 吉江友秋 (") 平成26年度
- 石出宗人 (") 平成27年度
- 齋藤史朗 (") 平成28年度
- 牧田康博 (") 平成29年度
- 清水康男 (") 平成30年度
- 河村孝一 (富山高等専門学校技術振興会会長) 平成23年度
- 松田登 (") 平成24～25年度
- 藤堂利一 (") 平成26年度
- 濱尚 (") 平成27～30年度
- 松坂武彦 (社団法人全日本船舶職員協会副会長) 平成23年度
- " (株式会社ケイセブン専務取締役) 平成24年度
- 本望隆司 (一般社団法人全日本船舶職員協会専務理事) 平成25年度
- 及川武司 (") 平成26～29年度
- 土屋正徳 (") 平成30年度
- 金岡純二 (公益財団法人富山第一銀行奨学財団理事長) 平成23～30年度
- 正橋哲治 (立山科学グループ管理部人材開発グループ
グループマネージャー) 平成23～24年度
- " (立山科学工業株式会社管理部人材開発グループ
グループマネージャー) 平成25～26年度
- 市川吉晴 (立山マシン株式会社事業推進室理事) 平成27～30年度
- 山口光三 (富山商船同窓会会長) 平成23～24年度
- 石山彰雄 (富山高等専門学校本郷キャンパス同窓会会長) 平成25～26年度

池 田 茂 (富山高等専門学校同窓会副会長) 平成27年度
" (" 会長) 平成28年度
石 山 彰 雄 (") 平成29年度
" (" 副会長) 平成30年度
木 下 晶 (富山県教育委員会県立学校課長) 平成23～24年度
坪 池 宏 (") 平成25～26年度
黒 田 輝 夫 (富山県中小企業団体中央会会長) 平成23～26年度
犬 島 伸一郎 (財団法人北陸経済研究所理事長) 平成23年度
" (富山商工会議所会頭) 平成24年度
" (株式会社北陸銀行特別参与) 平成25～26年度
梅 田 ひろ美 (株式会社ユニゾーン代表取締役社長) 平成23～26年度
大 坪 昭 一 (富山県商工労働部長) 平成27～28年度
伍 嶋 二美男 (") 平成29～30年度
高 木 繁 雄 (富山商工会議所会頭) 平成27～30年度
久 和 進 (北陸電力株式会社代表取締役会長) 平成27～30年度
杉 野 太加良 (株式会社スギノマシン代表取締役社長) 平成27～30年度

【富山高等専門学校】

米 田 政 明 (校長) 平成23～24年度
石 原 外 美 (校長) 平成25～28年度
賞 雅 寛 而 (校長) 平成29～30年度

【委員からの主な意見等】

平成23年度第1回（平成23年7月27日開催）

◎平成22年度 年度計画実施状況・平成23年度 年度計画について

○「入学者の確保」について

- ・合格発表の時期を県立学校の志願期間の前にお願いたい。高専を第1希望，県立高校を第2希望としている場合に，受験料を重複して出す必要がない。
- ・実質競争倍率が2.1倍というのはすごい数字だと思っている。

○「教育の質の向上及び改善のためのシステム」について

- ・職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材の育成という観点から，本当に大学よりも密の濃い感じだと思う。
- ・企業側として，毎年のように採用しているが，中身というか実践的というと本当に役に立つ，女性も随分しっかりしているので，随分先生方は教育に力を入れていただいている。2年前，3年前から見ると随分変わったなというのが実感として感じられた。

○「教育環境の整備・活用」について

- ・2つのキャンパスがあるのが特徴だが，2つに分かれていることで，両方の通信網というか，コミュニケーションのシステムをもっと構築しようと，IT化を進めようとどんどんやるということは，それに慣れた学生が生まれてくる。離れたことでそういう構築をして，学生を育てる環境としては逆にいいと考えた方がいいのではないか。
- ・若潮丸の有効利用については，地域の要望を入れられて，各団体の体験航海や各種の研究や調査を行って地域との友好関係を大切にしていることがよくわかった。大事にしていきたい。

○「研究に関する事項」について

- ・科学研究費の数値がすばらしい。採択率が，平均よりはるかにいい。
- ・方向性などしっかりしたものが見えているので，さらに発展するために相互の連携などいろいろやって進められたらと思う。
- ・学生の教育，さらに研究も含めて，オール富山でできるようなことが出ていけば一番いいのだろうと思う。

○最後に（議長から）

- ・いろいろ整備がされている中期計画の中間の年というところで，さらにステップアップをしていっていただきたいと思う。

平成23年度第2回（平成24年2月23日開催）

◎平成23年度 年度計画実施状況について

○「入学者の確保」と「教育課程の編成等」について

- ・入試の関連業務が非常にシステム化されて丁寧である。従前とはかなり違ってきているのではないかなと思う。
- ・入試の説明についても、2回来校されて、非常に詳しく丁寧、そして学校に置いていかれた資料が、非常に細かいところまで配慮されていて、学年担当の者にとっては、保護者、子どもに大変説明しやすいということであった。
- ・オープンキャンパスも何回も企画されて、親子対象のものもあり、非常に懇切丁寧で、親がかなり乗り気になったという報告も聞いている。
- ・本郷キャンパスが県立高校と併願可になったというのは、子どもたちにとってものすごく受けやすくなった要因である。
- ・試験会場が非常に多方面になっていて、本人の負担も、保護者の負担も非常に軽減されてありがたい措置である。

○「教育の質の向上及び改善のシステム」について

- ・高専が統合されてもう3年目ということで、今回、年度計画を見ているが、入口から出口までしっかりとやっておられるという感じがして、素晴らしい。
- ・キャンパスが2つあって、学生たちの交流も考えなければいけないし、ようやくそういうことにいろいろ力を入れられて、あるいは授業でもコラボをやっておられてというのは、学生にとっては非常に役に立つのかなという感じがしている。引き続き地道に交流を続けていっていただいて、文系であろうと理系であろうと、人間形成を豊かにしていただいて社会に出していただければなと思う。

○「教育環境の整備・活用」について

- ・設備のマスタープランなどをやられるのに、ワーキンググループ、さらにはタスクフォースまで形成されて頑張っておられるというのはすごいなとまず感じた。
- ・体育館の外壁や武道場の建具など経年劣化したものについてやられたということは大変大事なことだと思う。
- ・身障者のためにエレベーターをつけたということも大変評価していいことではないかと思う。

- ・安全面のために、高い設備について、耐震環境、機能改善に重点を置いた概算要求や予算措置をとったことは非常にいいことだと思う。
- ・練習船の使用のことも、学校のホームページを見ると、学内の実習や研修のほかに、一般航海、外部の研究調査への協力、他大学の方の体験航海など、いろんなことをきっちりやっていることがよく見える。それも大変いいことではないかなと思っている。
- ・エコアクション21は、いよいよ24年度には両方のキャンパスが一緒になって物事を進めていくということで、大変いいことだと思っている。
- ・学生、教職員の健康の安全管理について、各種講演会や講習会をたくさんやっているし、また外部からの方を呼んで、すばらしい講演を聞いた、そういうことをして頑張っている様子がよく分かる。
- ・実習時における発達障害学生への支援も、なかなかいいところまできちっとやっていると非常に評価したいと思っている。
- ・インフルエンザの接種は、1つは各自の感染予防、2つ目は集団に対する流行の阻止ですので、もう少しこの率を上げていただけたらいいなと感じている。

○「研究に関する事項」について

- ・論文発表や英文校閲や国内外での学会発表を支援することはものすごくよくて、科研費の採択もすばらしいと思う。
- ・特に特許なども明確な数値を出されているというのは、さすが高専だと。我々はとてもこういう数値は出せませんので、そういう点はすばらしいと思う。

○「社会との連携、国際交流等に関する事項」について

- ・国際シンポジウムや海外インターンシップなども、グローバルという点では時代に合ったものだと思うので、ぜひ進めていただきたい。
- ・小中学校等に出前授業をやっている。この部分は多分、小中学校等の関係でも結構大変な部分があって、調整などにいろいろ苦勞されているのではないかなと思う。恐らくこういう企画は、受ける学生、小中学生の皆さんも、親もわくわくしてくるようなことではないかなと思うので、是非広げていって、いろんな体験を小さいときからさせて、技術や科学に興味を持っていただくような活動は継続していただきたいなと考えている。
- ・企業の人材育成ということで取り組みを始めていらっしゃる。企業側もどのように高専とやっていけばいいのかというところは、まだ模索のところかなと思うが、何か新しい方

向性を高専として出せるようなら非常におもしろいと思う。

- ・国際交流に関しては、当社の海外の拠点でも、こちらの学生をインターンシップ等で受け入れることは検討させていただきたいと思っているので、ぜひこちらも継続してやっていただきたいと思う。

○最後に（議長から）

- ・今、「ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト」と「国際的に活躍する実践的な技術者への『ロードマップ』プロジェクト」の2つのプロジェクトをご説明していただきましたけれども、まさにこの取り組みの中に国立高専機構の中にある富山高専の存在感というか、事業の展開の素晴らしさを感じる。プロジェクトを実施する時、目標を作って戦略的に動ける高専機構の中の富山高専の姿、やはりすごいパワーを持っている組織だと思う。大学などではできないことをやって、社会への人材をしっかりと作っていただければと思う。平成23年度のすばらしい業績に敬意を表します。

平成24年度第1回（平成24年7月18日開催）

◎平成23年度 年度計画実施状況・平成24年度 年度計画について

○「入学者の確保」について

- ・併願になって本当にありがたいという感謝の言葉も出ているのが実態。今のところ、中学校長会として大きな問題意識は持っていないのが現状。
- ・併願制については、今年から併願制になったゆえの学生の意識の違いあるいはアクティビティーの変化に関してのフォローをされるということだと思う。

○「教育課程の編成等」について

- ・学力向上は高校側でも大変大きな課題であるので、取り組んでいきたいと思っていますし、参考にさせていただきたいと思っている。

○「優れた教員の確保」について

- ・高専の場合、博士を取得した教員を多く採用する趣旨はよく理解できるが、たとえば、高専の卒業生に期待されているものとして設計力がある。そのための設計ができる教員の採用を考えると、博士の学位を持っていない人が多いのが現状。よって、技術士の資格を持った教員の採用などは大変良いと思った。教員の多様性を感じた。
- ・目標値の決定の仕方が画一的かつ強力ですね。高専というのはそういう意味でのシステムは非常にできていて、発展を作り上げやすい組織だと思う。

○「教育の質の向上及び改善のためのシステム」について

- ・ 科技大との連携は大変良いと思う。そして、一番興味があるのは、今やられている海外インターンシップです。これは充実されたらよいと思う。充実とは、今のインターンシップの中身と地域の拡大です。どこでやるとかの。

○「教育環境の整備・活用」について

- ・ 経年劣化のものをいろいろ直されたことが多いので、これからも事故の原因にならないように頑張ってやっていただきたい。
- ・ 省エネに関することを一生懸命やろうということも、今の時流に沿ったことだと思っている。
- ・ 健康、先生も学生も含めてですけれども、昨今言われているメンタルヘルスも含めて、学校のある限り永遠に続くことですので、面倒で大変な課題だと思いますけれども、頑張ってやっていただきたい。

○「社会との連携、国際交流等に関する事項」について

- ・ 英語教育とあわせて、やはり現地での作業を見ていただくことが国際化、グローバル化という意味では非常に重要なことだと思っている。インターンシップというか、海外の各学校に行かれていることもありますけれども、就業体験はまた別だと思うので、そういったことをどんどん広げていただきたい。

○最後に（議長から）

- ・ 23年度の成果、24年度につながる計画ということで、高専の努力はすばらしいなと皆さん共通に思っていたところだと存じますので、また今後とも御活躍を期待させていただきます。

平成24年度第2回（平成25年2月20日開催）

◎平成24年度 年度計画実施状況について

○「入学者の確保」について

- ・ 本郷キャンパスが併願になった関係で非常に救われている生徒がいると、何人かの中学校長から聞いている。高専に行きたい生徒が夢を実現できるという視点で、この併願については大変ありがたいという話をいただいている。
- ・ 中学校へ来て説明会を開いていただいているが、学校によっては保護者と一緒に聞くという形で説明会をやっている学校があって、保護者から高専のイメージが具体的に伝わ

ってきて非常によかったということで、子どもが高専を希望する際のかかなり強い後押しになっているという話も聞いている。

- ・あえて何か改善や問題点はないか各地区の会長や副会長等に聞いた。あえて言うなれば、入学手続、確定後の手続が非常に煩雑で、学校でやる部分を少しでも手続の簡素化、あわせて保護者の責任においての出願など、そうしたことが可能なのかどうか、また検討していただければありがたいということであった。

○「優れた教員の確保」について

- ・博士取得者や修士修了者の数値目標を掲げられたことは大変評価していきまして、なおかつ、博士取得者はクリアして修士修了者も90%に近いところまで行っていることはすばらしいと思う。
- ・今日聞いていてこれはすごいなと思ったのは、人事交流として教員を1名2年間派遣したこと。

○「教育の質の向上及び改善のためのシステム」について

- ・シニアフェローというお話があり、これはすごくいい制度だと思う。これはぜひ拡充された方がいいような気がする。

○「教育環境の整備・活用」について

- ・ついにキャンパスエコアクション21を両キャンパスとしてとられたことは、多分高専の中では日本で最初だと思われるので、大変光栄だしすばらしいことだと思っている。

○「研究に関する事項」について

- ・継続してやっていただいていると認識している。各市町村との連携で、あるいは産学官交流会への参加等でこれからも進めていっていただければと思う。

○「社会との連携、国際交流等に関する事項」について

- ・射水キャンパスの海外インターンシップの研修の発表会も聞かせていただいて、非常に有意義な学生の生活の一端を見たような感じがした。また、高専の学生は礼儀正しくしっかり聞いていただいたので、ぜひまた来年もこういう機会があれば出させてほしい。
- ・企業との共同ということで企画をされている部分があるが、目的がどの辺にあるのか少し分かりにくいのかなと思う。どの辺が最終的な目的なのかちょっと分かりにくいかなと思っていて、具体的に詰めていっていただけると我々も積極的に参加しやすいのかなと思っている。

- ・国際関係に関しては、当社では留学生の方もインターンシップで受け入れさせていただき、海外でも対応させていただいた。これは我々にとっても非常にいい経験になったと思っている。あわせて、せっかく留学生の方がいらっしゃって、我々はせっかく富山でそういう方々と知り合いになれたので、うまくその辺を、フォローできるような情報や、そういったものがうまくつながっていけるとうれしいなと考えている。さらにそういう場をたくさんまた持っていき、うまく運営していきたいと考えている。

○「管理運営に関する事項」について

- ・国からの運営交付金が年々1%何某で減ってきている現状に合わせてご苦労されていることは大変だと思う。でも、本当にいろんな工夫で成果を上げられていることに敬意を表します。

○最後に（議長から）

- ・高専ができて50年近いと思う。50年たって、日本の教育というか高等教育に流れが、高校全入になってきて、それで大学の進学率がどんどん高まってきて、逆に少子化があり、その中でさまざまな入学制度の変更があり、大きな流れの教育のシステムの変換があった。教育というものに関して非常に危惧の部分がある中で、高専は苦しい時期もあったと思いますけれども、今は光り輝いて、本当に新しい時代を迎えつつある組織、教育体系だと思う。これに対しては、高等教育機関は、社会のニーズも含め、学生のニーズ、そして現場で働く教職員のニーズに対して応えなければいけないと思っている。その中で、企業あるいは社会ニーズに今求められているものに非常に合致した共通点が作られてきているのが高専の一つの形になっていると思う。それゆえに、高専に対しての評価は高いし、期待感はすごく高まっているのだと思う。
- ・やはり教職員の方が気持ちよく働かなければいけないということがあると思う。特に教員の方々は、高専の教育をいかにするかという特色はあろうかと思いますが、ご自身の研究力への思いも強いと思う。そういう意味では、長岡技大への派遣も非常に大事なことと思う。教育の方にシフトせざるを得ないことはあると思うのですが、それぞれ頑張っていて研究もすすめていただきたいと思う。我々高等教育機関にとって、富山県に立脚して地域をいかに活性化するかは大きな課題です。学生が富山県の中で企業の方々と連携しながらいい形で定着して、そこでパワーを発揮していただける人材を育成するために、教員の方々のパワーも発揮していただかねばなりません。富山高等専門学校の益々のご発展を期待します。

平成25年度第1回（平成25年7月30日開催）

◎平成24年度 年度計画実施状況・平成25年度 年度計画について

○「入学者の確保」について

- ・併願となったときに、ちょうど県立学校と高専の受験が重なっていてどうしようかと迷う子がいたときに、学校としてはなかなか時間が取れないこともあったり、トラブルも往々にして幾つか起きたりしているのので、もう少し日程的なことも考慮していただいたらありがたい。

○「学生支援・生活支援等」について

- ・高専で重要なのは、授業料の免除や奨学金の制度の積極的活用をやっていただかなければいけないと思う。周知をしっかりとっていただき、制度利用に問題がないようにやっていただきたいと思う。
- ・高等専門学校という形でありながら、最終的に卒業するときには工学部卒業生と同じようなレベルに達することをやらなければいけない。非常に難しいと思われかもしれませんが、だからこそ、高専をどのように理解してもらおうかということをしっかりやっていかなければいけないと思う。
- ・制度全体を考えることは継続的な大事なことだと思う。ただ、高専に対する評価は、今、日本の社会の中で、経済環境あるいは世界環境が新しく変わっている中で、国家レベルでは非常に高くなってきている。それは追い風だと思うので、より明確な形で高専の存在意義、そしてレベルアップを図るいいタイミングだと思う。そのように理解している。

○「教育環境の整備・活用」について

- ・安全、省エネ、健康等に配慮した設備改善という方向で進められるということは非常によろしいことだと思う。

○最後に（議長から）

- ・国は国立大学以上に高専をバックアップしている。いい形で進めていただきたい。予算の厳しさはありますが、しっかりした管理体制でやっていただきたい。高専が全体として1つの方針をお持ちになられて、予算を運用されていますし運営もされているというのを改めて感じていますし、そのよさを発揮していいものを作っていただきたいというのが感想です。また協力できるところは協力し合いながらやってまいりたいと思います。

平成25年度第2回（平成26年2月12日開催）

◎平成25年度 年度計画実施状況について

○「教育に関する事項」について

- ・協力企業の数が130から170へ増えたこと、これはすばらしいことだと思うし、地元の皆様方のサポートが非常に大きいということを感じる。また、専攻科の卒業生の地元就職のパーセンテージが非常に高くなっている。これは学科卒業の人は県外の方が多いのに、むしろ専攻科の方々は地元非常に多く残っているということで、専攻科の良さが生きているものと思う。背景は分かりませんが、地元と密着した形での学生諸君が育っているということは非常に大きいと感じた。
- ・一番高専にとって重要なのは、中学校で進路指導をしている先生が高専を知っているかどうかというのが非常に重要なのに、進路指導の先生というのは毎年変わったりする。進路指導をする人については、しっかりPRして、高専はこういういいところがあるんだということを分かった人に進路指導をしていただかないと。是非、高専の先生には頑張ってもらいたい。

○最後に（議長から）

- ・入試等々を含めまして、やはり高専の強みをしっかり生かして、アピールして、社会にさらに発展できる形をつくっていただくというのが本筋だと常に思う。弱みを何とかするよりは、強みを伸ばし、それをどうアピールするかだと思う。

平成26年度第1回（平成26年7月23日開催）

◎平成25年度 年度計画実施状況・平成26年度 年度計画について

○「入学者の確保」について

- ・貴校の方から、年2回訪問されてご説明されるということ、あるいはオープンキャンパス、入学説明会等があるわけですが、時間も短く、概略的なことしか分からない。説明にあった中学校の校長あるいは進路指導の教員あるいは三学年の主任が実際に貴校に伺って、教育や研究の状況を見るということはとても大事なことと思う。それをもとにして、学校に帰って学年の先生たち、あるいは子どもたちに貴校の特色ある取組みを説明できるということがあるかなと思う。そういう意味でいい取組みであると思っている。

- ・ 昨年説明会に来られたときに、卒業生と一緒に来られて、対談のような形で学生さんの生の声を聞かせていただいた。大変やりがいのある学校であるという説明があって、特に工業系の学習に興味を持っている、そういう子どもたちにとっては目を開かされる場面だったのではないかと思っている。
- 「教育課程の編成」について
- ・ 子どもたちの授業評価の集計結果も載せておられ、本当に綿密に分析されて授業改善に活かしておられるのが大変すばらしい。
 - ・ ピアレビューということで評価シートも作成して実施しておられ、県立学校等にも少し紹介をして授業改善に努めていきたいと思った。
 - ・ PBL、課題解決型学習は、恐らく学生自身が目的意識を持って意欲的に取り組むことができる学習スタイルではないかと思っている。同時に、モチベーションが高くなったり、あるいは通常の講義主体の授業では得られないような力、課題解決力やプレゼン能力、論理的な思考力といった力がつくのではないかという思いをしている。また参考に県立高校の方でも進めていきたいと思った。
 - ・ 特別活動の面で、ボランティア、社会奉仕活動などにも熱心に取り組んでおられ、学校要覧には教育目標として本校で育てたい学生像が書いてあり、こういった点を踏まえなくても、ボランティア、社会体験、こういった活動も本当に有効に働いていると思った。
- 「学生支援・生活支援等」について
- ・ 授業料免除やそうした支援をしっかりとPRしていただき、支援を受けられるようによく分かるようにPRしていただきたい。
- 「管理運営に関する事項」について
- ・ 「戦略」、ストラテジーという言葉が何回も出てきますが、非常に分かりにくいと思う。「戦略」という言葉より何か具体的にされたほうがいいと思う。
 - ・ 企業人教育を行うとか、企業人向けの研究会を企画実施していくのは大賛成です。
- 最後に（議長から）
- ・ 高専が生まれた背景、そして時代変遷を経て、今何が求められているのかとい目標を明確にしてビジョンを描く、そしてどのような人材育成の役割を担うのかを改めて考える時ではないか。大学とは違う役割があるはず、高校とももちろん違う役割があるはずで、その中間の、日本を育てるためにどのような人材を作るのかというのが高専の役割だと思う。

平成26年度第2回（平成27年2月24日開催）

◎平成26年度 年度計画実施状況について

○「教育に関する事項」について

- ・3学年主任等が実際に施設を見学できたり、お話、説明をできるような機会を設けていただけたら大変ありがたい。
- ・3年生になっていきなり高専を知るよりも、中学校1年生、2年生の段階から、高専での学習の素晴らしさを動機づけできればよいと思う。

○「教育課程の編成等」について

- ・課外活動、英語教育にも力を入れておられるといった点、ボランティアや社会奉仕活動等にも力を入れておられる点に、学校としてこういった子どもを育てたいといったものがあらわれていると思った。
- ・授業評価ということで、学生に質問し、調査、それからピアレビューという二本立てでやっておられる授業評価というのは、教育の質の向上にもつながりますし、学生ニーズの把握といった点にも役立つかと思っている。

○「優れた教員の確保」について

- ・新しく採用された方に対してはメンター制度を導入され、これは、非常にいい制度と思っている。

○「教育の質の向上及び改善のためのシステム」について

- ・「物理、化学の授業に実験を積極的に取り込み、学生の興味を喚起する。」とか、「本科の学生の問題解決力、コミュニケーション力、積極性を向上させる。」「高専改革推進経費等の教育推進を通して、学習教材の開発やプログラムの構築を行う。」「その下の本校学生のための教育カリキュラムに、企業と本校とが協働して検討する」ということで、新しい取組みをこれだけしていただけるのは大変よろしいことと思っている。
- ・eラーニング、ICT活用教育ができるように機器等も準備をされて、外国語の教育にもこれから力を入れていかれるのかなということで、大変いいことだと考えている。

○「学生支援・生活支援等」について

- ・授業料免除の関係、奨学金制度の関係で、ちょっと広報活動が足りないような気がする。
- ・授業料免除や奨学金がありますということをしっかりと分かるように、中学の1、2年生のころから説明をしていただきたい。

○「研究や社会連携に関する事項」について

- ・研究活動活性化の中では取組みが十分行われて、大変立派だと思っている。本当に実績を残されていると思う。

○最後に（議長から）

- ・今日は高専で取り組まれているパワー、いろいろ工夫されて、非常に前向きな話をお聞かせいただけたと思う。今日出された意見、幾つか貴重なご提案もあったと思う。自己評価でもよろしいと思いますし、事柄を客観的に評価しながら一步一步進むというのも大事だろうと思う。

平成27年度第1回（平成27年8月3日開催）

◎平成26年度 年度計画実施状況・平成27年度 年度計画について

○「入学者の確保、教育課程の編成等、優れた教員の確保」について

- ・入学者確保に向けた取組みとして高専さんでは中学校への説明やPR等も非常に小まめに熱心に活動されていて素晴らしいと思っている。
- ・教育課程の編成について、正規の授業だけではなくてサークル活動やボランティア活動といったものを総合的に含めた形での活動が必要なのだろうと思っているが、その面でも高専さんは非常に活発な活動をされていて非常に素晴らしいと思っている。
- ・優れた教員の確保に関して、優れた教員を公募で確保するとか、採用された教員に対してメンターを配置するとか、他の組織との交流をさせるとか、非常にいろいろな施策を実行されていて素晴らしいしうらやましいと思っている。

○「教育の質の向上及び改善のためのシステム、学生支援・生活支援等、教育環境の整備・活用」について

- ・商船学科の最近のニーズということに関しては非常に各外航船社も見直しをかけてきて日本人船員を育成していかなければならないという方向に変わりつつある。そういう中で富山高専をはじめ商船高専5校が取り組んでいる海事人材育成プロジェクトに対して海運界では非常に前向きな取組みと評価を出している。
- ・女子中学生に非常にアプローチをしておられるということでぜひ今後も引き続きやっていただいて技術系の女子学生を育てていただきたい。

○「研究や社会連携に関する事項」について

- ・今後もJSTや科研費などの外部資金を獲得されるように県内の中小企業との共同研究

を積極的に進めていただければと思う。

○「国際交流等に関する事項」について

- ・貴校の卒業生を見ていると非常に基礎を徹底的にたたき込まれていてこれは素晴らしいと思った。化学、機械、そういうところの教育を非常に徹底的にされているということ、また私が驚いたのが英語ですね。特に女子。最初、この子もしかしてネイティブかと思うくらいすごい語学力でした。海外からのお客様の対応などを聞いていても全く引けをとらない。これは一つの特徴にされてもいいと思うしTOEICの成績も素晴らしいと思った。これは非常に大きな特徴というかアドバンテージではないかと思う。

○最後に（議長から）

- ・校長が望まれることは非常にレベルが高くて、これは大事なことなのですが、オーバーワークになってところどころに穴が開かないようにしていただきたい。これを維持していただきたいと思うのですが、教員あるいは職員の方々が限られた人数の中でこれらの仕事をされるのは本当に大変だなと感じた。

平成27年度第2回（平成28年2月10日開催）

○平成28年度入学試験の状況及び平成27年度進路状況について

- ・受験者数が増えたのはPRを強化された成果かもしれない。
- ・入学生の出身地の比率は県内がかなり高いのに対して就職が県内外が半数ずつということとはかなり流出しているということである。

○平成27年度 年度計画実施状況について

- ・短期研修や海外の高等教育機関への派遣制度は、教員にとって非常に魅力的な制度だと思う。周りの先生がどうフォローするか、その辺をうまくやりながら優秀な教員の確保の一つの売りとして進めると非常によい。
- ・基礎学力が不足している数学や物理などの補充授業の実施は中学校の先生方にとっては随分安心できる。近県を含めた県外の中学校へのアプローチの一つの手段となる。
- ・非常に進学率が高いところをもっとアピールすれば保護者からも信頼されるのではないか。
- ・出口をいかに充実させるかは、優秀な学生を入学させるための方法としてこれからますます大事になっていく。

○最後に（議長から）

- ・高専の建学精神に立ち帰って、日本の産業界を支えるという点で大学とは違う高専のあり方をどう作っていくのが高専の課題である。
- ・大卒と高専卒の給与体制は改善されつつあると思うが、何年か前までは明らかにギャップがあったため、高専生は大学を卒業後に就職と考える。その辺のところも課題として企業側に検討いただきたいところである。
- ・社会、時代が大きく変化しているときで、AIで全てコンピュータ化され、現在ある職業の半分は要らなくなるという話もある。これからは、若者が転職を当たり前のようにする時代に入ってくるのでどう対応していくのが課題になるだろう。

平成28年度第1回（平成28年7月26日開催）

○富山高等専門学校の現状と課題について

- ・高専はものづくりの実践的教育を実施しているところ。富山高専の学生にはぜひ地元に残って県内企業に就職して、現場のリーダーになっていただきたいし、富山高専にはそういう人材を養成してほしい。
- ・企業では、今後は海外企業とビジネスを行うことになるため英語力は必須条件になる。富山高専から採用した社員は安定感がある。
- ・科研費の申請をグルーピングしているのは素晴らしい試みである。それが良い結果につながっているのであろう。大学ではなかなか実現できない。科研費の申請書を全てチェックしてアドバイスをするのは大変なことだ。
- ・教育のエフォート率が7割で、残り3割で研究・社会貢献されている状況でこれだけの実績を出すことは大変なことであり活動を評価する。
- ・高専卒業生が学校教員になって高専の魅力を伝えてほしい。
- ・幅広く志願者を集めることを期待したい。

○平成27年度年度計画実施状況及び平成28年度年度計画について

- ・研究に関する事項については、もう少し「◎」の評価をしてもよいのではないかと。
- ・女子学生がものづくりに関心を持つような取組を実施してほしい。

○最後に（議長から）

- ・この中期計画期間は平成30年度までである。今後の推進を期待する。

平成28年度第2回（平成29年2月15日開催）

○平成29年度入学試験の状況及び平成28年度進路状況について

- ・入学者の大半が県内からだが就職は県内・県外が半々。県内にもっと目を向けてもらうようにして地元への定着を図ってほしい。
- ・専攻科生の大学院進学は富山高専の売りとしてもっと出せるのではないか。
- ・中学生が将来を考える上で高専への進路を選択するかどうかを考えると、大学院への進学率が高いこと、なおかつ有名大学へ進学しているということは魅力である。

○平成28年度受審機関別認証評価結果及び高専4.0イニシアティブ新展開事業計画について

- ・今回の機関別認証評価では、富山高専は高い評価を受けており、頑張っているという姿が見えて素晴らしい。
- ・「高専4.0イニシアティブ」を実施することで他の高専よりもいろいろと可能性が拡がり、他の高専との差別化ができる制度と思う。ぜひ頑張ってもらい有意義に使って地元富山を光り輝かせてほしい。
- ・年間75人の学生の海外派遣をしているということは、高専在校中に全体の3割が海外を経験することとなり、富山高専の大きな強みである。意外と知られていないことだ。学校側でここまでやっていれば企業は歓迎する。就職への期待にもつながる。
- ・これから技術者を育てるにはプロフェッショナルを育てることになる。高専生は15歳からという重要な時期に学ばせることになる。この時期にどういう教育をするのかということを見ると高専は非常によい環境と思われる。

○平成28年度年度計画実施状況について

- ・各項目を総合評価、総合判断をしていくことになるだろう。日本の将来像を考えた中で議論した総合的なものの見方で判断していく。

○最後に（議長から）

- ・高専の強みは全国統一の独立行政組織であることである。これは、国立大学や公立大学との違いである。この強みを活かしてもらいたい。今後の推進を期待する。

平成29年度第1回（平成29年11月21日開催）

○富山高等専門学校の現状と課題について

- ・富山高専は評判がよい学校であろうと思う。監事監査、内部監査の報告にあるように、学生が満足しているというのは非常に重要なファクターだ。
- ・中学校の校長を招いて船の中の様子をみせたり、オープンキャンパスで中学生に高専の

魅力を発信していくことは非常に大切なこと。私たちが高専のことをよく分かっていると生徒たちにも高専がどのようなところかを示せる。今後も続けてほしい。

- ・高専生は心情的にタフ。学力，人格ともによい。「先輩から学ぶ」事業では高専生が中学校に来て高専の生活の様子を生き生きと話をしてくれて，中学生が高専の理解を深めている。高専への進学者は生徒たちの憧れの的になっている。どんどん魅力を発信してほしい。
- ・国際交流と英語プロジェクトに力を入れていることを評価する。
- ・富山高専は先生と学生とのコミュニケーションがとれている。課題にどう取り組んでいくのかという研究の姿をみせることが重要と思う。
- ・国際ビジネス学科の学生は目的意識をしっかりと持っているという印象。
- ・教員の博士号取得促進には県立大を利用してほしい。
- ・県立大は高専へもPR活動をしている。高専生は進学，就職ともに非常に恵まれている。確固たる学力をもった人材を輩出してほしい。県立大で学んでいる高専卒業生は非常に勉強することが身につけていてしっかりしている。
- ・富山高専は評判がいい学校であるので，女子学生を増やして富山県に就職してもらえば地域にいい人材を定着させることになる。ぜひ意図的に女子学生をとってもらいたい。
- ・富山高専，富山大学の卒業生は絶対的に信頼できる。富山県の気質の特徴であり仕事に抜けない。実験のデータをとっても隙がなくしっかりと仕上げる。富山県民の性格，素晴らしさをより大切にしてほしい。

○最後に（議長から）

- ・高専生がどうあるべきかを考えた教育カリキュラムを考えてほしい。これは富山県の高等教育がどうあるべきか，50年前にできた高専，高専制度が，AIが出てきて新しい時代を迎えようとする時代にどうあるべきかを考えた答えを今後出してほしい。

平成30年度第1回（平成30年11月19日開催）

○富山高等専門学校の現状と課題について

- ・高専の学生は大学生に比べて勉強時間が非常に長く，真面目である。富山高専の良さを内外に出していかななくてはならない。
- ・高専生は，進学，就職ともに非常にいい。本来であれば，高専卒業後，高度な技術者として社会に出るべきかもしれないが，進学率が高いのは保護者の意向もあつてか。進学

する場合に、入試形態が一般高校からの受験と違い、編入学で更に高度な教育を受けることができるということが高専の魅力に繋がっている。

- ・パンフレットを見たが、富山高等専門学校の名前の頭に「国立」を入れるべきである。価値観が、全然違ってくる。専門学校と勘違いする。
- ・県商工労働部としては、高専や大学と産業界支援のために、学と産の連携を応援していきたい。IoT, AIについては、情報系の学生と一緒に取組んで成果を出したい。
- ・高専を志望する生徒は、特に目的意識が高く、しっかりとしたビジョンを持っている。5年間で就職を希望する生徒もいる。

○最後に（議長から）

- ・纏めに入りたいと思うが、高専のいいところをいかに伸ばすか、高専から声を上げる必要があるのではないか。
 - ・高等教育機関である高専の在りよう、高専の位置付け。
 - ・国立を前面に出す。
 - ・5年教育の表現の仕方。
 - ・高専卒業生の給与水準を大学並みにする
 - ・早い時期からの職業人の育成

高い意識を持って、富山高専の良さを生かす。8年間、議長をさせていただいたので、纏めたいと思う。

- ・高専のよさを生かすためにも、全国のトップランナーである富山高専から発信していただきたい。